六七

9
3800
4

門口9
3800
巻 4

大和俗訓巻之六

躬行上

昭和九年
若月文庫
本田野亮
長男左右
氏寄贈

籠嶌
子孫
蔵史

京都帝国大学
文学部
図書之印

大和俗訓巻六

ものこのこゝろをきゝ始事は孫ちゝハ大学は誠意はの
ぶ[躬]行と偽わるとゝ行ふ初ちゝ君とぬこゝ也孫きゝ
ざしバ道乃はじめとゝべきやうゝ学者は最初ちゝ所ゝし
べきゝ也ちゝ也ちゝハはゝ孫ちゝこのし事ハ学ゝへバ
ゝ孫をこのひゞゝゝ也孫きゝゝゝるハわき奥とき
らふゞゝゝとゝべゝ先深ゝこのゝきゝゝ也孫人のきゝ始こ
ゝ多きゝしゞ也奥行ゞいひべきわゝこのしゝ多きし
ゞ好ゝよゝゝゝゝ始ゝゝ先皆孫人の高ゝよこのゝきゝよ
始ゝしゞゝ孫ちゝこのゝ也ときゝ始ゝも又始ゝ高ゝ也ゝ人

しるべりをしるべよりて人をさとすべきなり人のりの公の
門よりそでいれば善悪とあれども此のこころふる業なるべし
て善悪ばかりにて悪ばかりにてざるハこしを自歌と云自歌と
ハうるの門実のごとく成云者とおもこ悪ときこゆる浅
なるべしで善ばかりいつくるとあるいろ人うるとと
毎人で善本の根をたづねわく家とたるふ基をたづ
ごとしばのおこなひとい道をゆんとゆくべそしたち
をこなひと神とをしへ

力ばの道ハ大綱ハ身をおさめく人倫をあつくとゆう
あり身とおさまるハ五とあるふあり身おさまるされ
ば人倫のたがひなれど身をおさまる條目ハ言と行ふ

しばをあつくというと懲しおこ人懲とこころふだた
ふきこゆる西ハ苦ふるくこつとあるひとがあ
まりとあるてをやふわるこをしるふあるこを上人よ射し
て道をゆるべども人ちがつてばとざる事あ人と
せあるとて自人つもみ求ゆくるどを苦ハいてざるをせ
ひ人

おもて人の身ハりどをまをれどばるくいで言とばとの
二よりとばず云とつしこそ行よりばとの言
一免ハ身おさまる故よこばをばしこあ川くとをハ
身とおさまるのゆらちり
言行とうそバ人ばの身のどざ平なる視聴言動なり

四乃ものに法あるべき所の事なり法あり色と後くいふ
後よりもつぱらく択聴を動とするべし四の事れみとなべ
きうとおとハ非後なり後ハ人ぬ工乃ものをうけわ
しをみるとと見いざれば材木あるまでも用にてこれを
見いざれば択聴を動ものなるべしあるべしあるべ人乃人ぬ
ふ所ハ後なり後ハけものハ禽獣よりうつ故よ後ハ身とお
さあるとおるよ則なり君るハ岩よ後をもちいるの
小人ハるよ後りそして君るよく小人乃ようく西迫
視聴言動ハ人乃身れ四のものなり思ハみ心の動かて
ものなれなり君をぬを無ばきこふるを強よりうハ思を
はくしむる道なり

義ハ物のよ其ものよ義と利とのうちあり義とハ我ひ
べき公の理なり私なくして我ひるよせざるもとの身
乃ものよりハ義よあるべ利とハこの身のあふるる
私のものり公のくさるといふものをひるよ義ハ
不義ものとうつるくみく義よりもこれいひるふをしをひる
ものなるもも心義ぬもつぱらてこの身の利ぬ
のをめにべ見私なり君よ仕ふ所一事をいふなる
とくはもひるハ君ものもの実よ忠ものてこの身とも
もくハ義と正くもるものをりをもとはもてはめと
ものを思乃悲竈とはんさあるよつくしるものあべ見利を
ものなり義よあるべ仁義とハなるべきこるものをく

まことの利のあるよりは私なくして義理よるべき人よりこびへつらひのうるさく敬利は求めず自高自慢の利は義よりは害あり中よりべき天下にきこえあるひとは名誉の義理のうるさくも分はきめにとる小志あるは利をもとめず義と利をもとむべきなり術なり

君とおもひてはこれはなはだしきなり仕へる仁義礼智のおもむきをいく孝忠信慈愛恭敬温和辞譲剛勇廉恥かぶ武はよはひるに法則をとるとさはらの君とおもひていくも名利を求めるは微乃君よりはどの君武はよはひるよはひぐ一とをこれ義理よりはいく名

利のおかるべ

所人乃行ふ事につきてとあるとはかみ悪かけまどもちがひて理よりぐふを云悪とは君悪は幼かぐ態よりまく理ふたぐふを云是自欺なり分とおさしるふは悪とあるそれて君ようる武つとめとべし聖人はるをゝ賢者以下なるとなれは凡人はるを多し何で今世まるとなれ人あんや人乃いさあとさしてもはしどまれるあ他ちがひてあるまちなれとるを人あり是自修なみ志なれなりり自修る人はる学さるとをるべし自省てまぐる武なり人乃徳をやてまぐる武あゝあ君よ

うつくし
さふ我方をうつくしんで我ものとおもふ
をもうるハ速(スミヤカ)なるべし常書にもとゝ沒めく者(ヤウサカ)なる
ものといつて者とハもとむなりあやまちとおもはずしく
ハ改むるとなれどもしくハ則改むるふるゝ所
なるものとのさまつたなきものなるハ愚也
なるべきものなるハ沒めざるハ即愚なるものなり
物その性こゝろ
剛(カウ)ハ必素質(シツ)の偏(ヘン)なりとこゝ剛なる人ハ必つよ所あり
ものとなり柔(ジウ)なる人ハ必よわ所あるものなり素質(シツ)の
偏なる所よりてものとなるなりと求めし学者つ

よりて素質の偏を楽しもるべきものなり
かれこゝせざれバ学問の益なし先其性と
なりて学問なるハ素質の偏よりなる
なり氣質の偏なる所ハかゝる所なり十
分の力を用ゆ
うゝ分量人よりおのゝ多きハ必ものとなるべ
なり沒めざる人ハ卑下(ゲ)にして自暴(ボウ)自
棄(キ)と云べしかやうなれ共人よりおのゝ多
とゝなり
人の目ハ百里のをき所なれども背(セ)とゝのゝ所
いとゝもをとゝをてゝ遠離(リロウ)ものなるをもて

げをこころるをゝこゝをゆ人紐ゆゝとゆゝどもゝゝゞ身乃
あやまりとちりゞゝ故よ君子れ学ハ為ゝゞ身とゝ人
ゝゝ人乃ゆゝゝあ式ゝゝ見ゆゝあやまりとちりて改ゆるを
ゆゆゝすゝ路ハ我ゝ式人乃為ゝとゝゝこゝゝを故ゝ
面世の師ちゝ程ゝもゆゝゝ人とゝ為ゝ面ゝゝゝゝゝ
ゝとゆゝどもゞ身乃ゆゝきとゝ為ハ人を為ゝゝゝ
ゆゝゝゝとゆゝゞゝ式つゞゝゝゝ人ゆゝゞ面ゝゝゆよ
ゝゝゞゝゝ人ゝゆゝゝ財とゝゝゝ或酒肴とゝゝ為ゝ
ゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もとゝうるはしけれど人皆偏ゝとゝ人ハ君子の心ハ天
白日のごとく洒落(シャラク)よりて一点(テン)の曇りなく日食月食をバ天下
とおなじくあらはしてうるはしくくもりなくくれなゐ
の人ハそれもわざわいくくもりくくもりくくれなゐ
なるべくりのごとく明なるれバ日月の光明よりもきび
なし君子ハ是をくれなゐ人ハ偏僻(ヘキ)よりも小人過(カヤ)ハ必文(カザ)とゝ人
ハ小人ハそれをかくしてかざらうとせバ心虫
の毒とうるはしきを非といまげいつくりてはめか
ゝとなるべき君子ハ小人のこゝろをひらいやし
と云へり尚書にあやまちとしらずして非とするとまか
れと人ハ賢人をうるあり況れ人をや是を用てよく

改しうる成君子とゝ人ハ
人の善をとゝくハ我も又善なり人の不善をとゝくハ我も又不善なり
あびもつべし人の不善をとゝくハ我も又善なり
やし身をくるとおそれくるゝハ改しへ改しへ
どうきてとる所の人の正善無結(ケツ)なる老子ハ善
人ハ不善人の師不善人ハ善人の資(シ)とゝ人るもし云たり
いわゆる賢者ハまづ善成きてるをこのゝ人のいさめとうこ
べきいさめきてるとゝ改めなるべきよりとしうるき
いまられ善なる事これより大なるハなし又古の賢者ハ
人よりあらハとゝうこゝ人ハ善成きくるをこのまべ
まづ善成きくてハ無のこゝろをうしなとゝ

身にかこふ心づくしてとゝこゝバ大なる害也
今の人ハまゞるときく事をこのまゞ人乃我とかしこと悦び
まゞ者ときくゝとこのひせよをつゝ小人多きあるじ
ゝ者をれを恥こゝろと知ゝ身よりゝ長成人
ゝ者世人ハかゝも屋まをもとべて
人のいさめ成このまゞ故よ人を孫ひとひ人ゝ世ゝまぬ
かゝるなる人とおゝ人ゝ又ゝて成いさひまゞ人ゝ
老老せゝ云又老人ハ今の風とゝゝゝゝまゝ心
居ゝて長成いさひまゞ人を乳ゝゝいゝ遠
ゝゝゝ成人ゝふ世乃俗よゝと人の欲よゝゝひ屋
ゝひゝいさめゝ風乃世よゝ乳風俗ゝゝ乳ハ者ハ

目ハいとゝゝ悪ハ目ハいとゝんよゝゝ乃ゝ人ゝ成ゝ
ひゝおゝて孫と云人ゝ屋まゝも屋まをも孫を
ゝゝ人ハむゝ成ゝ故よいさひゝ人もまゝゝ
人よ対ゝてゝとゝよ人ゝ小ゝゝ人をせひゝ
ゝゝゝゝ成ゝ立人ゝゝゝ求ひゝ先と自反ゝ云ゝ工
まゝんゝゝ也人を先ゝて人ゝをゝゝゝまゝゝゝ先乃
いまゝゝいゝゝゝ故ゝおゝゝゝ人を礼て人ゝ礼ゝ云
礼ゝゝバまゝ礼いまゝゝいゝゝゝ成ゝ人ゝおゝ
ゝゝおゝ海ゝゝバまゝ智の孫ゝゝ故ゝおゝよ先ゝ先
人とゝあゝゝてまゝ身ふ人ゝゝ求ゝ立支ゝゝゝ成ゝゝゝ
まバ人ゝゝひゝゝゝゝハ礼ゝゝ孫乃ゝゝゝゝ

なりしを実と信じ、まことは我わざと人をもくハ乃和も
なれ妄人なり禽獸よりきたなきと人をもて是とあ
らそふべからずと

中庸曰言顧行行顧言云云ハ言と行とハ相違なりべ
言行ともに己れ身の行とうつくしく云べし事とハやとく行ふ
ハ言とうつくしくいひてハ言よりもとべしめ
ばなり故に言ハひくくしひてハ言よりもとべしめ
をして言と行とおなじ口よりあまりかくの身に
行ふ事をもとむるハ是言ハ行れをひもとむるなり
言と行もとむるとハ小人はそなハ大人よりなる故に言ハ小なり
なくしてもとべし行ハ小なりなくしてもとべし

古語に忠臣ハ二君に仕へず烈女ハ夫あり夫なきなどといふ君
子ハ道の節義をもるべきなり臣節義とハ臣の君に仕
へ婦乃夫につかふるなり一ときにたの節義ありて二なな
く二君につかへ夫にあるとも不幸にして不幸にてこれ
ば限ありとも君ハ君とて夫ハ夫とをしへて夫人命を
なしまつり命を失ふとも大臣乃君ハ君ハ君とて節義
とをしへ乃ものいひ才能あるとくらりき人も節
義をもとしてをしへ君をもとしてをしへ
人をもとべをしへ人をもとべ一ときの節義をもとしまして
利ある方につき害ある方ハのがれ或死べきハ死べきなり
是ハ一生の名ハけだものにあらべ後代までもあるべきなり

とゝのゝとなゝて人生まれ血肉をのこすゝ身とこゝろづくべし
死後は名誉の名もみゝゝ身はれ内なるものとこゝろづくべし生
子ゝの必一さび死ゝゝこゝゝゝ節義をゝゝしくゝ
ひとゝ命といきゝゝひとゝたゝら富貴を
きゝしゝも人は道をゝゝるゝゝ世ゝいきゝゝゝゝゝゝハ
他のゝゝゝゝゝゝ

まことの師と立つべき人倫の道をおしへ義理をたつ
しめ行ふべきこの四勢業より重きはなし勢業ハ富貴
ハかるくいとなんとなれば勢業ハ富貴ときりはなし家を
国土を治ムる法なり富貴ハ富貴ときはまれども
命なきもの富貴も用なし生ぜず命あるもの海ハ国土を
ゆづらざる法をさだめべし海ハ命とうづまるべ
らざるもの歌ハ死ぬる人も命ハ失ふ国土を
治をなんとなるべきハ富貴よりいのちハ
なり死ぬるあるべからず故曰勢業より重きハ主と臣
ハ君又ハ命をもとうハ父と子と及ぶと朋友とつまと立て互
とゆくしりひとりの人あるべ朋友と兄弟とそ

士ハ
士ハどの去ハ主友とハ人をそ
死をなげうつ人ハ
子ハ親を人ハ命とも
より義理ハ
名を
めくるべ
理乃生命より
いもべ
ちざるもいとんや利欲より
ハいふとよ
元乃人財禄をなる事とこの

ばの人あるべからずそ
ばりなる禄をなく君の結ハ
命とも
ハ
ハ天下の人ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ義理を失ふ
ハ義理を失ふ義理を
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

家業をよくしたしむべし又忠孝ぬまざるハ別して是を
このまバ書まれるとよくつとしむべし又義をぬまざるハ
なり是をぬまバ学問をつとめ義理をもるべし
是ハ都て人道の大節なり禽獸(トリケダモノ)ハ忠孝もなく恩をも
忘れ人にすぐれ忠孝もなくして禽獸よりひくし是人ハ禽
獸とまるべきなり是ハ人たる大節なり
是ハ孝ぬまざるハ人たる大節なり
孝ぬまざるハ孝ぬまざるハ同じ恩を知るハ孝なり
人ハ四恩あり天地の恩父母の恩君の恩師の恩
此四恩をしるべし天地ハ人の大父母なり父母の字
ハ即天地なり人ハ天地なり

後ハ天地乃恩なり故に天地乃恩ハ広大
なり是ハ天地の恩なり
なり天地の恩を知るハ孝なり
孝を知るハ孝なり
孝の第一を知るハ天地の恩なり
故に人たるものハ天地乃恩を
なすべき事なり
なり天地ハ人乃父母なり
なり
なり

人まうてを大恩の第一をひろめたり天地八人乃大
父母ちゝ人ハ天地乃ゆるれバ也天地よつ人なる孝れ乃
ありて人となる先の一生つとめるべきを也ゆえ大る
乃ハなく也ゆえ乃ゆるハ人一人となる先必ちゝどん
バるべくばしるべき也ゆえ神ゆの人ゆちゝどん
をゆよちゝどくいつゆり
父母ゆれをうゆるとゆいどもを生とゆけ一神ハ天地乃
事ゆるゆくゆまゆ也天地ハ生ものかたちをとゆひまれて
後ゆいとけなゆより身をおゆくゆまゆ天地の恵をうけ
天地の生ゆるゆを合ゆて家ゆ業として身を
やゆゆ天地乃性をとゆけ人乃ゆ徳をゆゆひまゆ仕て

おゆ乃れ霊ゆゆ天地の内よりゆゆ人乃ゆきめゆ
ゆくゆ生ゆゆをゆ初ゆ身をおゆくゆまゆ天地乃恵
とゆけゆゆか也ゆゆ大恵あゆゆとゆゆ身
をおゆくゆまゆ天地よつ人なりて孝とゆひゆきハゆ
ゆれ也ゆゆ孝とゆひゆゆ也人間乃一ゆゆ也なゆ
ゆゆゆ

乃力と云身れ力のうばりとゆゝしてつゝ人財の力れうきりと
はくして去るひとらくふこゝ出入うはるれ付ハ子れも
人と又母の恵ふこうびカを仕くこびして不孝とゆるひ
又母ゆくうく後悔とれども意ゆ一生のうばりたに根
ちう人れこのうち去後悔みうんうると思ひ又母乃いをう付
ちうとはゝして孝とゆゝ一日も孝とゆゝびしてあ
ぶにとゝ人うゝ又母よつう百年ハ久うゝ孝ゆハ日とお
しひゝ人るゆ人ようゝ

又母ゝれを生とゝ人ゝ君の去ひよゆゝ我ゝ身不
豆君乃孫をうけくうゝ身と去ちゝ人のゝゆゝ又母
妻をやゝちゝ奴婢をつゝひ衣服居宅器物乃

用うゝ人ゝ人ゝ安系ハ世代ゝうゝ事ひゝ人ゝ君乃
中ゝ人ゝのちう見又又母ゝちゝ忠ちう孝ゝう
うゝ家ハ我ゝ身をゝゝとゆゝ地ゝゝ身とゆゝ君
ひゝちゝ人ゝ見ゝ身をゝゝゆゝゆゝ人ゝ人ゝ乃日
事又母能竭其力事君能致其身ゝハ見ちう
又母ハ生れ君ゝやゝ人ゝうゝ人ゝ人ゝ人の教ゆゝハ
人乃乃とゝゝゝ乃をゝゝゝゝゝ人ゝ衣をゝゝう
に着ゝう乃をやゝゝゝゝゝ人の道ちゝゝゝ禽獸ゝちう
ゝれゝ人ゝゝゝれゝゝゝゝゝ今ゝゝゝゝゝゝゝ
人乃人れ恩ハ君又ゝゝゝゝ人ハ君世代師ちう君
世の後ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なるべ聖人の教をもてぶひもろはよりもしるべ生産
人は忠孝報ぶるあたり
おのずと天地父母を君師を人は忠相なるべくなりてあも
しは忠とまことをもてるひとはくはあるべとなるべしくは
どんばうをくはこれをひとんとなるべるとまるべくく
はるるよりはあるべるあるくはし
金は世をあとを教ゆる師はなるべくはなるべくつ
うるべし道の教をうけるる師は其忠ふるさの君父
よひとをこまるよりみるべるる師を自讃の師と云も
労るるるべし義塾の師はみをあたりはもはは君父産
人の恩をはるべるべくこと人べもと若号の忠をとる人

くるはしはるの人の生涯をはは忠はるるをはるるをるべ人の
忠はるけばるるべ沢してをるべるはは一言の恩をも感し
一事は忠はるるをるるをるべ人は情あるを感せ
ども人は忠ともしるべくるるはるるはるるべ
月恩温の日人は忠はるるをるべるべ去は
こと人の忠孝あるんと山言ひ恩をるる物とは忠と
るるをくるるるるるるものは忠孝をるるるべ忠孝を
君父の忠とは忠道なり信信は忠は不知は本なる
ひくこと人るも恩をるるべ人乃ものは也若のの
乃天地をつくて仁とはるるひ父母は孝はるるひ君を
忠をはるべ師をるるべ故舊はあるくるるは忠

とし、ゆるさるる人は性よりまことをもちる信人あ
ら忠孝をとしてゞて節義をつとめ礼をかゝざる者
あり是も天性乃とゞまるる所なり其人とゝつ
しみよのつとめ才あるもの忠人かゝざる者は舊恩を
まもるもあり義をしるしるもあり
古語曰施恩勿念受恩勿忘人は恩をわすこと
まがなしとゝべき高恩乃厚とおもひてうさのかくまもり
うるるは人まもるべしひとうけ恩をわすこと
なるらく恩ゞしくるるハ人ゞめぐみとうけ
バ恩とゝもとる人うけ恩ひてりんすと思ふ也小人ハ
人は恩をうるをくハ必ゝとゝ人よめぐみとわすこと

必ゝとゝはゞとてもひとを求ひ人ひくひざれどうゝい
ふれ天地乃人をまゝ親ひかゝハもめぐゝ廣大なれど
恩をおもゝ親ゞ其法恩とゝ親ゞ天地よつ人ひとを忘
ゝ父母の恩をうるハ孝ちる者ハ孝ちる事
なれどもとゝ孝ちる者ハ孝ちる者ハ孝ちる者
孝ハ孝ちるひとんやゝ孝の人偏乃恩はそゝひと
くばゝ恩をゞにしらるも父母はめぐゝふゝゞハ第一か
孝ゝ孝子おゝゞ孝ゝ孝をゞ十人あ
ひ人ハ必ゝとゝはてひとゝゞ恩をうるゝ人ハ孝人恩
をひとゝとひとゝとゝはるゝ孝ゝハ孝人恩
ゝとひとゝとゝはるゝ孝ゝハ孝人恩

くるみいろくるまうこの僕とうこの人情をもつべしこれ
ぞ一忠成らんをしつとくハ小人のなすわざとしるべし
らひ人をこのしべうとをもつて人情をもわるかりそこの分
ハ忠成ることうし
あるいハ人乃ねどこうとうけ忠成ることうし成我を思ふ
ものこの忠あるべバかりこのうしれ打節の礼義を作し
しべ一久しくもつておこうこうと成初ものつくしまでも後
とうをき人ハ久しきとふれ忠成ることうしくこうし
人ものぞたる一情後一乃ぬくちるべし礼恩をもつざる
ハ世乃礼人れたしるべしふこれ我ゲ分ハ
こうとれ人情をあるひく忠をこうとうれ忠成ることう

あるハ人をあげてこうをしつ大ハいやしき獣をけしと書を
うをしを人をもつひくこうれ他の富か家をうしを他
ケしを富く金をあるひとも他ぐきりのこの人ハ
家をあげ毎る成程十里のこのをもつ人をふうたる海と
おとぐくもつ人海をあるうこれ忠をもつぐ海ハ人を
ハ大ものもつどこいつをし
人海をあるくもし一日忠をもつ
ぐ一古人ハ日民ハ神をまもるハ先民を
て後神をかをもつ人人事をもつあどして神を
を求しへうれ神ハ三あるう天神地祇人鬼なり天神
天の神ハ義ハ日月星ハもつ角あるう地祇ハ地の肖

神霊なり名山大川の神社稷(シャク)は神も民のあり社稷と
八國土穀の成なる神なり人鬼とは人死て神よいえ人
なると云なり家代又世先祖の神あり是あるべしまたは先
祖宗廟(ソウビョウ)の神あり主なるこれを祭ば怒なし無
後なり又先祖よりあるべしども人民の功德あり人あり
是皆人鬼なり是又主なるこれをおそれまた身の魂
なる神をあるべし身の魂せざるは祭べし天神地祇
人鬼ともに人代後よりあるべき身にあげるべき
き神あり身のあげるべき神あり身の魂あるべき祭
るべき神よりあるべども是と是は論なり非後
なり神は非後をうけ後にあげるべき身のあげるべて祭

るべき神よりあるべども祭べき神あるも淫祀(ミダリ)と云淫祀は安
福(ヤスフク)とくまなる祭べき神を祭ていのるべはひつ
くも非後なるべうけ後にあげるべ利まなる利まなるを世
福(ヤスフク)と云なるべき神と祭べきまなる神なるべ
まなるべしなる淫祀を祭るは非後なる神無よか
なるべ利まなるて神罰なるべ天子後侯(コウ)なる後
べ祭ひなるべ天地神明をいやしき者なるべ
つまなる祭は大なる非後なる天乃神明は公(オホヤケ)なるて人
なるべ即時なる非後を祭とどめ罰(バチ)をうけ後にあげるべも
なるべきとつて祭なるべひとりなる祭は必然の乃相違
いやしき者は日月を祭なるべ又祭べき神と祭なり

久しきを大なる禍とおもふ人多くしてこれ
をあらためさるべし鬼神を敬ひて遠ざけ
まいらせ神おそれうやまふべしちかづきあふぐべ
からず人ごとに大人などにおそれくらばかりなる
也遠ざけ神の庭をはなれあつまりて
どうばらづきあるべからず人ごとに
よく人は武勇ある人乃孫をきて人は
くらべ誉あり人の言葉用ゆる者は多くして
まことのことわりは稀なり人あるいは長あり
良ありしかれども人あるいは出陣する度ごとにまけ
ぬくるとなく人乃徒党集あつまりて

此度の戦敵よりうちぬべきものを人こゝにいたるまで
ぬきあきらめどもいたづらにて
びれしかばてようけりこれをなめくすれをあらめべ
きと後先しを出陣をうばゝ戦ふべしとふかち軍
のくして敗軍をば何ぞ敵あり也軍のうふだ
らどと大事小事皆此ごとく重くしてこれを
行なひ是ちりべし孔子乃三軍をもつて
よのぞんでおそれ孫をこのんでなさん者あらばこの
ものいまだ此ことなり
人乃性りて善悪ともなすべしとなりこれ
利害を打捨て意情の私欲をはなれまことに善悪生ずる

をしらずして故なく死するもの常にをしむべきものなり
つよき人しるべ知れ中とくの人くをあれをこの所而
とりわけ云つとく云ふ世生るとそこをおしひろめ
ひろめふべし
孟子曰志士ハ溝壑(カウガク)よあ所に忘れじ勇士ハ元(カウベ)をうしなふ
しかるに忘れじといふ心ハ義理に志ある士ハ必ずしいるる
分不孝にして名を溝壑(ミカクス)に捨てもちひて死なるとも
を捨てまでハ義理を忘れじと又義理をいさむ士ハ必ず
(サフラヒ)
ひとと我ひとく我ひとをうしなふけ心いるるとも人
ども義理を忘れじとわ士ハ去ハ必ず命を常に心
に考へもちて失なふ所をうしなと古人もいへり命ハあ

り紀地の如しと義理ハ又命より重おもし故に生死の大
事にのぞんでも義理を忘るべからざるものなり
しかも名利好色財宝ハ皆命の如しなれども
をしとしさるべきおもし紀乃義を失なひんやおそれ人乃
欲ハ富貴をきいしるふ心あり徳をもいとふ富貴を
を換ぐる紀ハ命なりて命なりて富貴も用なし命ハ
なれど命紀地の如しなれども義理をあるりて命ハ
をしむべき君子ハ及ばと元来も徒をるハ是人
れ本の如しの強て義理をおもひ紀地のごとしとる
なれども一命より基本紀義理ををそれきハめく
惜き私欲よりもなれハ本末を失ふ所なり徳をわすれ

なりといふを〜
怒はつよく慾はうすし故をよからぬ〜力を出して〜怒
ゆるべからずとよはけしと怒と慾とのうちにて悪代字
はゆるのよしみと書怒と慾乃分かるとそらさぬ事
みとは切りかわくなるべし是臨川の悪は弟を出
なりし流なり又歌よりひく戦ふかわく十分はらう
と見めはしめはせざれば怒と慾とまけやすし慎悪
乃工夫なく怒と慾とふかさざれば平生の学文も用
ふやうにいづるなり
人と生れくは道よ志ざして
毎日人の利益ある事を事とする〜君父母

親族兄長なとによく仕へ人家人を恵とるハ皆善なり
又人をめぐみ救ふ又善なる品を作りてもしか
ゆるしと人をめぐみ救ふハ必財を用ふるの多かゆ
ゆゑに貧人は難儀とをくて幼大なり富ある人ハ
財を多くあつても益れ少き事なれどこれを
かあつても其利益大なり富人ハ食をあ給る者
に又食物あるハ貧なくしてく人はく病となるう
えうるものハ食をあつても利益ふるさがゆ〜財
と多くはいやしてもを益乃ゆに用ゆるハ人の助る
らどもあるべし万物をとりしてもあるゆ〜油をついやし
なるのうめく利益なく費とい貧人をやるなく

大なる利益なり人〻善をなすとハ世を人に利益をほどこすをいふなり人を利益するにハ先天地神明乃至ハ
ものゝひくしたがふをもとゝしひがまくさいなんをはらふ
なり其その子孫し良しかたちをなして善悪ともに人をを
ゝかるよりハまことにハ乞丐にいたるまでなるべき
乃あり富貴貧賤ようゝどもすべて善悪ともに志ざし
あるべし富貴なれとも云事かしこ善悪ともにあるべき
つゝしみをたくはへおこたらざるべし
人もに仁を志ざして行ふべきを分ようゝ思ひ人の利
益あるべきをしりたんや富貴の人をも志あるべし人を
とゝのふるひろくきもいるべきなり

こゝろをつくすべきなり人ハ善をなすべきなり
のゝ法ざるべからざるの内より法徒をもつて善悪ともに
るべきなり天地ひろくあるべしとゝのひ
をさいなむ理ハ古今かゝやかしをふ
し良しうるをなれども君子ハ善をなすべ
をもひをのぞむよりおのゝ自然乃ちをこの
世俗ハ耳目ハ服の欲をかゝわるとゝ
ざしをもつて人をなれ富貴なるかしこ云ま
ふ世俗乃いやしき志なり人の道をもつ善をなす
をひろくもとゝひ人をとゝのふべの事世の中より
なるべきやたゝさいやしきを善悪ともにあ

ちごうふといふことをいへり天地よりこのかた人道をしらぬ人
人をわくれむといふことをいへりてそのちなる俗ふと称が
如ハ富貴の人といへども孫よりなる人と云べしこれさ
ら富貴ハ人ハ貴国なるものをあるれしかることをうるを
ふしびしら色富貴とはなる福徳なり強ちなれハ富貴人
をはなるるしるし耳目口腹乃欲もよく紀綱なるハ乃よ
そむいどして不ことなるよりなどふるてく欲をかしいまく
ふるるハ分のまざりひとあり人は害ありて不ことよあり
どりへつくうとひとなる

後漢明帝の弟東平王ちゆより教よふふ勤あり時
明帝問く曰家よりあくなりあるや東平王答く

やさしハ為貧最不ごいへつと云ハ人ハ困よあるそ居を色
貧の貧ハ窮飢ををとくひ鰥寡孤獨を居ものく貧をと
多ハ尤そのきこちりかそて人間乃不ハ貧ならるかどこの
面白きこ事色いろき匹夫も貧をとりよ志あるハ貧をと
ふるる多くを不多一同く貧ならひてやまぢハを不
きはまりなるべし況富貴の人貧をとりどを功大きこと
度くしてを不ふ人をしかるべし東平王の答ひべなるの
か元貧をとをなぐ我ら公侯くなもふとうびはぐふまる
ものしかるどや

尚書有備無患こいへをを云ハ事のるかくよくよく用意
をとをなぐふとうなるるもはあるしくもうはひなりこと

つゝよ武を忘ぐ浮人ハ常るの時乃用意ある故ハ世
乱ありてを治めらるゝ時ひ平ぎ考ふ倹約あ（ケンヤク）して財乃
ぞくゝ人あるべ乃ゝ考ふ変よあ乃ゝくも国家（コッカ）をしいた治の
治る時かゝの恐し道理のつゝ考えをとゝぶゝ私欲をとゝ
て後乃用意とゝ考へくゝ考れ世変にあ乃ゝ時乃見
捨なけ乃ゝバ不意ゝ世変にあ乃ひくゝ明日のゝ事ハ今日
より知と用あ来年ゝ事ハ今年より知と用も一生ゝ事
ハ只今より考へ考へくゝ考へて考れゝ悔なゝ事なゝ
て考ひくゝ考へ人を見て色（ミエカリ）なけ乃ゝバ心を知られひあり
し聖人乃ゝ教へ也

大和俗訓巻之六終

大和俗訓巻之七

躬行（キウカウ）下

人乃身に気質（キシツ）ゝ悪しき處とあやまちとゝ病ハ
ゝ病ゝ病ある人醫（イ）とまゝ悪しき薬を服し鍼灸を
て病を治せ乃ゝ病ゝ身ゝ病ゝ人ゝ
ゝ乃ゝ考へ人ゝ病ある人ゝ
せ考ゝ病ゝ薬ゝ鍼灸ゝ病を
ハゝ考ゝ難しゝ気質を変（ヘン）じ改むるハ
ゝ考ゝ人ゝ人ゝ
天ハ常にゝ考へ
ゝ考ゝ考ゝ

うごかすと人をよのりてつゝしみふかくしてもちゐるべし
ふかくうごかすぶべしはもしるよあるべきなれば人乃乃道をそしつもるとつゝ
きびつくしむよあるべきなれば人乃乃道をそしつもるとつゝ
むとハ即天地の道ゆへて人れ法をてゆるべきなる
人ゆ身にゆるとまざゆるゆをを道不在と云るゆるし坐とて
ゆるよハ性をるのなあり所よハ所乃乃あり所よハ所の
乃あり飲食よハ飲食の乃あり言ゆて言の道あり動
ぐふハ動くの乃あり視ゆるよハ視ゆの乃あり聴よハ聴
乃乃あり道をゆるんとゆるべき事ごとに乃あるをを
ゆるしく謹をいゝてゆるべくもゆるとゆるべくゆる
身を修むる道なり

不仁ゆて吝嗇ゆれば財多くゆるとも人ををゆひめぐむ
ゆるゆ吝嗇ゆるべきゆ人も仁者よゆを用ひざれば財を
なしてゆくゆるべく吝嗇のゆゆ財をゆいやを一去事とゆ
げくいべく門門ゆ嫌よ及べ居ゆ飲食多人ゆるべく食ゆ
こゝゆもんゆを用て見とめべくまざれば家の盛川こも食
とゆゆべゆ又宝ゆ若ゆゆて後ゆるよゆるべひゆれゆ
下ゆゆなべゆ屋の門宝ゆべゆる所よ入垂べえべゆやゆに
ゆハいゆをゆるゆゆるゆゆゆよ財ゆる小ゆゆて所べゆ
ゆべく後ゆゆ宝ゆ宝ゆゆるゆべきゆゆよゆけべれば彼べゆ
べえゆをゆべゆていべゆるゆゆ身ゆを用ひざれば身ゆ
ゆゆゆよ志ゆん人ハ美ゆゆ身ゆゆゆゆゆゆゆ

ひとへにかくるまでおうんすると云ひてうて人をすくふ
なり

程子曰財をおしまずして人をすくふ
べしたとへば成ぐしと云ひしなるべし財を
用ひずして空ぐ言ふ人と云ふべしとかくこそ
人もよろこびてもて人をもくひびこ
人はあるべき忠をたくさんぐれば功
とかくとなる成ぐし項羽と婦人乃仁といひも是なり
凡のまいつるとは云ふ所の中のいくさる故吾
を行ふ事をしてもて事成就をば誠の吾とも
くもて人もみ信とをば感通の理なり
後義廉恥乃正しくいさぎよきを云ふまづ身を正しく

かくれたるとはいやまちたる人とせしべし
らと人はうを事ぐふせあをしてまづ身をくふ
くせんとをしば人をあるべしひとの人のうををくして世
変りかて人の吾ばかりめをしひとれ不能とバ
こをしたそんぐうにをつまづしべし
聖人をいまづ身と正しべし聖人と人を正しべし凡
人と人をゆるべし凡人を我身とゆるべしべ
人はおきとはゆるべしつづあきと人はゆるさる人べし
人乃のきとゆるさぬハ凡の意せぐまづあきを
ひとふゆるされんすとをつの人ハ鄙狭の意なるを
まづ身ハ十分に吾おんすと求しべし人は分ハ汁ろふ

若し人まことを失ひ人は一乃若あるべし又一の若と求
しひらをもとめ二を求しべらざるべし
君子は己をもとめ小人は人をもとめ己をもとめれば身おさまる
人をもとめざれば人のうらみ小人はさうるべし人をも
ひるがへるをいまだ身をもとめ己をゆるもとめ
をい人とゆるせば人れうらみるして変を全くし
德行はよりも上なる人をうやうやしなはんすと
おもふをひきくにのぞこしてまづ身をまことおりあるべ
き財禄はよりもおもれる人をうやうやしのしべ
世よは身れ福禄我らもなれ人多一人名をもとや
もんすとば世よをうらみ先ゆるして先ひ

多一人をうらみ身をわれそしべ人を大富きるる
人も多くを欲らざるして多一をとればうを
やもんじて多一或人はあよとうだけしもあるべ
世の中にはもなれ人もこそあれとよ多るがめし
酒食をもごれは病をせざるの本也言はしまざるは
まざりひは本のうを素せざるはあやまれ本也私欲ふ
うれは身をこころのおもちを欲をこうざるは爭のもと也
倹約のうざるは困窮の本也はしをさうざれば身と家
とはそりうがうつるあるこれを去べし
品をもとめ本はやもく品はそれ行ひてを名をもとめ
ざるるはうるべし品をおうこの品あり人をおうざる本は

而とも人れ我とおり世ども也を無絃と世ざるハ
如ハ古の乃をちり物のひ月の他法ハ今の世乃風俗よそ
ひ〳〵ゝ〳〵と代世よりれ古乃法よりかゝりてゆ物ゝと
と所ハひがる也乃よ害あり古法の代当世ハ物ゝ人
きすハ物の人乃と一当世の時宜よそひ〳〵ゝ〳〵ゝ当世
乃風俗よりがれ〳〵古れ乃よりひ〳〵ハ基ゝ所一見ゝり志
ゝ代世道ハ人常人倫とゝ云法ハ後ゝり他法とゝ云
世よ所ゝゝゝ所ハ和ゝてゆがれ物ゝ代ゝゝゝと和とれゝ人よそ
ひがゝとゆがれざまゝバ乃とゝ当ひ人ゝと見世よ所ゝゝゝれ
行乃中乃ゝり
人常人倫れ道ハ古今和漢同ゝ所ハよりゝ所よりて

かゝ〳〵バ後の乃ゝ人ゝ法ハ所よりゝ所よりそよりゝ
きゝ〳〵宜ゝ物ゝゝゝ事ゝ所ゆゝ人よ古今和漢ゝゝゝゝゝその
国れ礼法よりそひ〳〵ゝ〳〵国法よりそひ〳〵ゝ古の礼法と物
なゝハ乃よりそひゝゝ他古乃礼法の中に国法よ散ゝ所
て今代世よ物ゝひて宜ゝ物ゝゝゝゝゝゝ
の古乃礼法ゝりゝゝ今の世乃時宜よりゝずハ物ゝ人
乃ゝゝ

大学を立ていつゝゝれ仁を為して人をあゝれ
義理をかゝゝちゝて物ゝれ弟と共ゝゝゝ又世兄弟
よ友とあり〳〵ゝ主君よつゝ人て身とゝゝれ釈滅を
ゝゝゝゝゝゝ

よろづ〳〵ハ厳かして四方正しく倹約かして無ものく費
病をめくゝ邪路をとゝひ利欲をとゝ肌く植勢よへつ
くゝと四季式ハ武ど武とゝ〳〵みゝ軍用とゝ式一度約
徐〳〵とする後まゝくゝひろざゝ式良士とゝ〳〵
古代日人のきゝんゝとかゝれハいつるゝ式人のゝゝんゝと
おゝれハ治ゝよゝゝ式ゝ式ゝ悔ゝとゝくゝ
徳ゝ式ゝ

長ハ冬日ゝ式ゝ式ゝ久〳〵く稜ゝく稜ゝく後ゝ式ゝ式ゝ
つゝ補ゝ式ゝと用ゝ式ゝく元ゝ式ゝまゝと補ゝ式ゝ〳〵ゝ式ゝ
ゝ〳〵久〳〵ゝ服ゝ式ゝ式ゝ検ゝ式ゝ式ゝ毒ハ冬ハ式ゝ式ゝ
ゝ式ゝ式ゝ毒ゝ式ゝ式ゝ式ゝ式ゝ式ゝ害ゝ式ゝ式ゝ式ゝ

やゝ毒ゝ式ゝ式ゝ式ゝハゝつゝ式ゝ式ゝ式ゝ式ゝ式ゝ病ゝ式ゝ式ゝ式ゝ式ゝ式ゝ
ゝ式ゝ式ゝ式ゝ式ゝ式

とも如くこまバ仕人乃仕業あつくそのりけあつくぶあ
きこの多くうる故利とはいる事多しも皆安とはと
多くかの仕うる者ふ不のまてこの利なりこ工ハ器を
そこに仕なるていつる高ハあるものをいつくりて利と多
くひさぐもバ人仕とびてうる器うる物ハ人とこ多
くなりうる人つそ利をはる事ことに渋出よ貪賈ハ三文
之廉賈ハ五文といへるもはこ出なりこ云ハ欲ふかき高
人ハ三分の利をはる欲をく如き高人ハ五分利とはる欲
ふかく如ハ利とはるもこ多く欲こ多く如高人ハ八分を
て利を多くはるこあり
孫日つとめてゆ怠よりてもおそれつしむハ易し穀

なり天道ハ日夜めぐりてやまぢこれを生ずるとしてこ
古人ハ仕とふこ仕よふいるこ日夜つこ先一故を居るあり
高後ハ一生のこうるハ仕こあるよありこいつを仕こあこれど
家ふ多ふかれど身を立ふ一生のつとめハ
うれはよあり人ハ身をこれふくこうるハ三十家ハ四よ先
仕をれて一生ハ家業ハ立川を四芸仕ふく無れど一生
立こ一年のこうるハ去よあり去れるとこうね
ま八一年ハ多成こ一月のこうる事ハ上旬よあり翌日
こう十日まこれ四よつこれど一月のこう成やこ十日の
月ふを名二旬の日数をこそのこておこれバこうる新就
しかこ一日ハこうるハ新よあり新よ一日ハるこうと

よく考へ合せたるゆくすゑ仏の教のうおこれ
ど一日のたのしみ、うゆゑとみ明日はいかなる
明日のうとは明日とうんらく今日さえんざうしてつまの法さ
てとうゆうと
古人の教のうとおもとおとうとおとうとんあの異魔と知る
とうとうて教のうおうとおとうとは家のうさうるうおとうとく
おとは家れおとうとおとうとおとうとおとうとおとうとおとうとく
ひるとは男のうのうとは家の法とうれ則とうんあうりむ
ふとれの人をうとおとうと教ぬとしてはうまうるうとと家業とこ
うて富めるうとのまとは教おとうはおとうれとうれ貧窮
のうとひとよう事とうとひるる去は一日を八十日とすつとうん

てどうとうれとうとおとうれはうゆく故也おとうるうとのは十
日を八一日とす日数多くとおとうとうゆうとうれ長式
はとうとうおとうとうとうとうとうとは良士とすれ家業
をつとめておとうとうとうとは良民とすれ
知とはうひとうとうはうとうとこの去さうとひとのお
聊をとうとうとは明みてうとうとうとは道徳とゆうがわとう
をもとうとうれとうとうとうとうれはうとうとうとうとうとうとわと
とうとうれとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

いろうてわくうよりゆるびいつまでもくへうしいあるしいそぐし
きさいのぞしくそしいわぐしてねの高名とそうびゆ
ゆうだしのつしくさ素たしてゆるべ必義ねあ
ちぐしのやする事多しそぶ一てびよくさひくさあ
てもみ一なんよゆうそこなるすの多しも事れあふ
ゆをめぐしそ変とかんぐんて二びとつをし孔子曰
人をそれ恵みけもバ必ちくき憂あうさまわうさう
ゆるとうふいつよなぐず後の事とちひそうりあやまう
たく悔あうんうるとうぐしゆくしゆ古後よ早ふ
裏笠と俗ぐだしとつ人ゆめくそぐいまやぐうをあく
他ふよりよそれ日和よくしてゆるかまきさ京を

ちうもをそれふよゆうバ天変くうりがさけまハ裏笠
をねゆぐしゆひ天まよくゆうどた裏笠をうる
いぐりきちくあくさうの物よあびるゆハざる
ふゆうるバめをそうて衣ねとのうハゆといほ
ゆん身とんぶ庫めれそ若人まを用あるべき裏うさ
と危うてえりせくんをもれ人ゆさめいぐびし
ようぶ乃事ゆてゆとゆ用いおそれつしこうくゆ
をくゆ恵くく事とゆるうぐあやまちをゆく悔をく
かしゆ川ごゆ級ゆるのゆうゆうハさしあうてまう
身れをちうよゆるものくをうひくゆ後乃ちざうひくゆ
らぐをゆんぐやくゆうあうんとうんゆるをうあを

面衣の用ゐるは人をそゆんずと余
もれども面の所まきようとあらざるやうて面をあらは
てゐるをめづらしがりていくらびもみうしはかりく見
なくて後のうとひとうの人つまづくハいやしきものの
くせなれバよかるぬるとしもるべしとくの人のあとの
なをもあやまちとなるもはなはだしきにのぞみく思ふ
せざるをもとこの酒食ハ人ハ病をまして病とお
こるもこれなのぞこの葉をもして只欲よまうかく
のくるふゆへ病をまじくしてハ身と失なのよいこの
くの葉して作るしむハ欲ようの禍をまねうるあく
ちなり

己が分のあやまちとなるんさあ人の体をぬしうるまこと
らハいさむるとの多くん酒食ハ人れぬしあるべし人体
退して始せげるもあるく欲ませるかしるハ世乃あり
ひなら是人れまこと酒食をぬしうるをもしるべあるを
酒食をこのむこく体をこのくまるをあるハ体
をを云人多くして我の分れるをなるべし
子曰行自厚くして人をせしるに薄きれるうみう
をうる云云ハまづ分のひをあつくするようくせん
うるを求めく者ハ我分れひのそこざるうるを思
ひくはあるべしの人のそこざるとゆるして
へうるとかくのめくるとれるべ人乃うるみる

能作文と作る人は妄なる怪しき文字とおさえ久しく
沈思して一字一句よんを用ゐて精しく考へ後好
き作文を作り出さんと和歌とをもひも同じ様なるべ
き人は作者を所作といへども好き作文和歌と作る事なる
かる人し碁をよくする人乃碁子をとりとるゆえ
ちくちくの後よりと一子もゆだんにやくをさしこ
らせば碁をとらでせばこれをあやうしひてよく人よりの先
をいかなる賢者れ言作も又めけうに業して後とく
べき出し事とおもひしかるに故に賢者の言作はあやま
まちとなれしもしやく決定してかるくもく作な
りぐ賢者といへども孔子乃必也除るだ而

懼好謀而成者せとのくまをふこのべし面世風愚人
より賞愛れるを虚をうんばるゆるをあづかりてなど
かるべし常人も名業はこのめばまを云とはくもゆへ
るとやく決定せとふおおをやはるゆとおやまち
とくれく乃妃よ面作るの多し決断乃人はくるゆ
けも必ずをくく後悔多く
好境とハ心のまま好る境界と云逆境とハ名やうう
ゐくざる境界を云世乃の事順境ハ作るハやもく逆
境よ作るハ人し故よ逆境よ作るとハ敬畏出まく身
乃ものとくれくして人ハ作く禍ある順境よ作れて驕
奢の心出まく身のものとくもく身の禍ある事

へんこうふわるるものハさきたれどうぜつ勢逆のうてかさけまと
ばちひきにたるものハさきたやとし勢明あり　こゝ
やとまれバたち盃まれ憂患はまく安樂は死わる
とのこまもしまもありうまひおそれあるとバ生人合戦
あり川安樂みて敵逆ゆれど死とまぬうまうと敵
ある国ハ長久敵たる国ハ久しく亡びやとたうれ
周武王席銘曰安樂必敬安可悔也銘の意ハ語雖
よくまひあるハかとれ作ゝそあやまちをかき
少禍なしあやまちをそのむとれハ必おそろゆ
てあやまちをいとくきうひとうるかほかやとれハ
結よ作ゝ出ゝ作ゝ結ゝ作ゝ結ゝ作ゝ結ゝ作ゝ

ぐ小後悔なしのちの後ハかなや先後故よ作まつぐぐ
ア後ハかやゝ好ゝてまろびやとたうめ
曰く行ゝ事とうるとあるんあるうん事とうるとあれハ必
後悔あり後悔ハあやまちをかくいうと欲ゝ
ゆとハ色ゝ後悔をかくゝ後の徳なゝ事
ぐふよくゝ好ゝてゝ後の徳なゝ事
うぐりきうハうゝ決定をゝ人ゝ同くまぐ居恐
を考ゝ定ゝいとぎくふうゝ事と決断をゝ作ゝ
く決断とれバ色ゝ後悔ハさたうゝ
事ゝ先ゝくゝちひ作ゝ
まちとれくゝて後悔なうゝ人ゝわくまで思案し

十分よろこんで法のやまいあんハまろ公乃ゆ事と成
くしまれぐらゐに及ぐ成ぬ事ハ天命に任せくるしむ
へからず
君子ハ勢多成ぬ事を成ぬ為ハ小人ハ勢多成ぬ事を利
と為す君子ハ小人と共に成ぬ事を志ハ利
と君子ハ義を為す小人ハ利を為す志ハ
盗賊の淫也と孟子のたまへる通り利ハ財利を申さば分
のうちにあるべきなれども義ハ義利と成る
と利公也是私なり私を為すハ必ず害あり人ハ
害あるべハ必ず身ハ禍ある君子ハ義人ハ必ず
利公と云べし利と為ハ義ハ義ハ

なり
君子ハ道ハ行べき事と為ハ必ずこれ義
なりこのゆゑ君子ハ道ハ行べきを行ハ
君子ハ道ハ行べきを行ハ人乃知ハ目のうへ人ハ目ハ百里乃外とゝ成ぬ
睫と云ふ人乃知ハ他人の悪を知ハ人乃悪を知ハ
を知ハ人を云事ハ常に明なり私なけれハ自
見ハ分ハ君子ハ私なきハ人の己を
ひる事ハきびしくして悪とゆるすハゆるやかなり
富貴の人ハ成ぬこのゆゑ富貴乃力に成ぬ人を
ひる為ハ廣く是ハ成ぬ小人を

とこのまざれば富をのちうにしたがへておごりて人をそなへ
無礼なるものつゐに貧しかれわくるれば富をたもつことなく人に
てうとぶいとなむ貧賤なるは乃不幸なるは乃貧窮なる
は人の所嫌はしらくよく者と侍りしそなる云ふあり
あるいはつとめなるべく福なく福なくたちまち富をたまはる
なれば貧窮なるべくとゆゑんなくとなつとめなるべ
とこの乃もはとめどもておこなはれば事なるべく
こころゆるとしてなすこと事成就をしらく事と侍りしなる
去ハ事といつそなるべきれども おこなはれたる故一日小十日のタ
とおとおこなる去ハ十日のあさぐ一日のうとおとおこなは

とはしるとハ基功をうるふかれを
自信とハいふなるものあるはよあるとあるうふこくの
そうまとくうまとくいとくをとうごうこうをこの古結は礼義
不徳の憂人言といふなるおかしく小人非義とはるひくの
誹をくうまとうんざるとハ基別なる君子ハ古代なるひの
そうまとおこれざるんしかく小人不善をなるひくくのこうまを
おこれとんハそ無きハまるるうへ
耐煩とハいふうき事ときこうたして堪忍して侍るあ
をこなり者ハ忠信なるで法のつとめなるうこうとこ
ろうへ乃附託をうまくいつかりうとくあるこうあと
ふるのハ無礼なるものいとげとを色者とこのまざれば也とが

このむすハ日数つもりてもいとまなくて若しむかしハ氣しとがめられくるしく病とこの
今日ハ明日の計をなし今月ハ来月の計とし今年ハ来年の計とし平生ハ一生の計とし生涯のく死後の
計とすべしおろかなるハ
明日なすべき事あらバ必今日よりなすべし
こゝろへしらぬ彼を作りて文をとらんとすべし今日より
かきそのつく彼と命とをしるを日のすぎゆくを
思ハずいたずらにくるゆるのみなるのみ歳さ過ぎ
まぎらかしてなすべし
中庸に凡事豫則立不豫則廃言前定則不跲事前定
則不困行前定則不疚道路定則行有餘
つくく思ハずくこゝろにまかせ事をなすべし
つゝしみとまりもなくて先ハ事をなすべし
と事をなすにもうゆくくと事ハ
てなすべしなるまし
世に経事一日百年ぞ一日の苦人とすべし一日も苦なしなる
ことなくて日をとるべしなる儀乃官職とあげるべし官職
なるべ一日なるバ一日の苦事とおもへ一日も苦なしなるべ
して官職ひまくくとなるべし世に久しく苦なしなるハ
一生涯苦しくとも也官職に苦なしなるハ官職を
苦しくとるなり十二月大なるべしなり

凡人乃行のまことハうゑくゝ也業なくて又事よのをもくゝハ思
ふくゝやく法をもるゆへよ毎事あやまり多くして後
悔をれとも其ときをつよ事こゝふくれ一事
あるこゝ小忍後のあやまり悔あんるをおそれ也ばゝ思
ひて行ものをし仏乃害ゝあるべきとゝ思ふくこと
きく法をもへくゝしをし即ちよきこゝあがくハかゝ称てよ
く思業して行ものをし事にあゝりてすゝにあ理ようゝ
ひしとハゝ業ゝ及ごゝとゝもゝいゝるあゝきゝもも
あんゝく報して俄ゝ決断をへくゝ先をあやまらゝをく
なく悔をくゝをるゝ及なゝ
思ゝ思して去思とゝくゝ必決断して報なく

行ものをし思ゝ思して理ゝふなりても決断つよかゝざれ
ど行ゝとゝ悠ゝとして怠ゝ時をゝとハあゝ不得見
義而不為也勇也思ゝ思して決断ゝの二をゝくゝてよく思ゝ思
なくして見ゝりにゝよく決断ゝれどあやまる也不智なり
ゝゝ思して理ハゝゝもあれど怠ゝゝて時を考ゝハおゝて
ゝりせ也ゝ無勇也二の去ハいつもも悔あり
ゝあやまりハおゝくハ初一時乃怪きゝ求ひるゝりいぞく後ゝ
なゝ見ゝゝゝいゝるゝゝゝゝるはゝめゝゝを見いゝ愁
ゝゝゝゝ

疾ふるく後きよのまう身れおを所ゐざれよくくつとみくくいぐ
るゆあハ後日れぐゐんとてて改めん事と思ふ至ー毎れか
くれてくとへ
人の身れとさあるうてあるとへきうゆ多ーよくゐのそゆえん
ゆくくちやくくたくしゆくしゆぐんあとハ急あるうゆハさーとれ
ていてぐどゐるくぐざる事とつとぐくつとむ後急とかん
ぐて前後の汰身と共ゐるとうれさうて用ゐさうゆとた
とえいぐる事をこのそ日とあ所ハくゐゆーといえ
しまうれはハくふとぐきうぐれも心を用いどうていゆか
ちくとごとゐゆ多ーよくとへを行くへー
人のちんてれうまて所ゐゆハ悪事ちうへーあくき

ざとへうれくとへ身よれるうくと
人れあきとそ所人ハ多ーゐぐ身のあきとくつみて改
いゐ人とれーうゆ身とうくくれとれそ所ゆすか
ろうちう
ゆう身のとれつひよ人ゐ人ハかうそとあか
ぐうにうまひよろこびとゐふきれいんとあれぐ
かいゐ人そしゆ人必皆賢者よあくざれハちう
人ゐれをそうハきぐゆう身のあやまちとくつとうれし
ゆくつ身ふるあくバそ所人ハ師ゆう師ありとうひ
うむへうれゆう身はゆもあやまちれをそうハ彼
人ゐ妄人ちうれとあそいあくじゆとれ

人の悪をとる事三の故あり 素質乃偏より悪をなすあり
又あやまちとハ志ざしも人欲乃私よりなるあり 亦
たとへハ誘よりそなるとあり此三の内素質乃偏
なるハ悪の本なり人欲の私ハ悪乃幹なり 俗習の誘
悪の末也 又の禍となるハたゞ同一素質のあしきと
ハ変化して改めし人欲をハ悪しくあらためしとへ
と 偽名とハ是非となりてうつるべし
されハ人ハ己を用ゐる多き故ふとくおさまりて
とれしよりぐるハ人ハ己を用ひどてる多し 新
どの智恵なしして用ふるハぐるハ皆己を用ゐれ也
己を用ゐるとハなにぞや思案をとると云なり

古後よりたとひれバ美よりうつ情あバ是ざるひよかつとへ
いろうハ徳ともなる人ハ必富ひ人ハ必ずさいの色
るあ事とおりなどあやまちなくしてうやきる多
きれど一てびあやまちてうぐるハ悔のやうびし
うあめも益れ今より後をはしそるなりく悔
なるんるとうなしあやまちて後をやく改めハ
とるくなる事多し易ハ平備をうばてうへ悔
あいる事なれ也 己の事をあよく徳とおも
ひとうく後悔なるんるとうなしはずあよ己也
なけとバあやまちて悔あり 情統千始と尚書ハ以
又れ禍福ハ天命に従と人ハ求ひへうに又の徳

ハ[illegible]ら[illegible]よ求ム[illegible]人を[illegible]ひ[illegible]人[illegible]ハ人[illegible]の[illegible]
べき法をもるひて身のとれた[illegible]ハ天命と[illegible]則
[illegible]

人のこゝろ[illegible]あ[illegible]毎日久く[illegible]
[illegible]ハ留[illegible]人ハ[illegible]ふ[illegible]
てひろく[illegible]
[illegible]
[illegible]

なをやとしもつくれども若ハこのそなへを用いつとめ行ふ
ものとし無ハあるべきなをおそれ

大和俗訓巻七終

嘉永堂蔵書